

国際ロータリー第 2550 地区 黒磯ロータリークラブ会報

国際ロータリー会長: ジェニファー E. ジョーンズ
 第 2550 地区ガバナー: 佐貴直通
 事務所: 〒321-0945 宇都宮市宿郷5-21-15
 ベルヴィ宇都宮内
 TEL: 028-651-2550
 FAX: 028-651-2551
 E-mail: m2550@agate.plala.or.jp



会長: 植竹一裕 幹事: 大島三千三
 事務局: (有) 大島商店 大島三千三
 代表取締役 大島三千三
 〒329-3155 那須塩原市笹沼262
 TEL: 0287-65-0863 FAX: 0287-65-3381
 E-mail: 3003@mbv.biglobe.ne.jp
 例会: 国民の祝日を含まない週の水曜日
 12:30 - 13:30
 割烹石山 那須塩原市本町 5-5

第2977回 植竹年度第13回例会会報 2022-11-09 司会 田中 徹君

誕生祝い

荒牧明二君、黒澤洋一君、鈴木隆子君、
高木茂君、(吉光寺政雄君、鈴木久雄君)

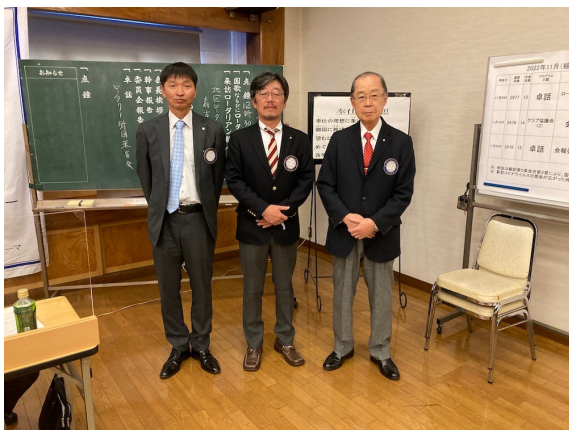


国際ロータリー第2550地区 ロータリー財団委員長 森本敬三様(パストガバナー、 大田原中央ロータリークラブ)

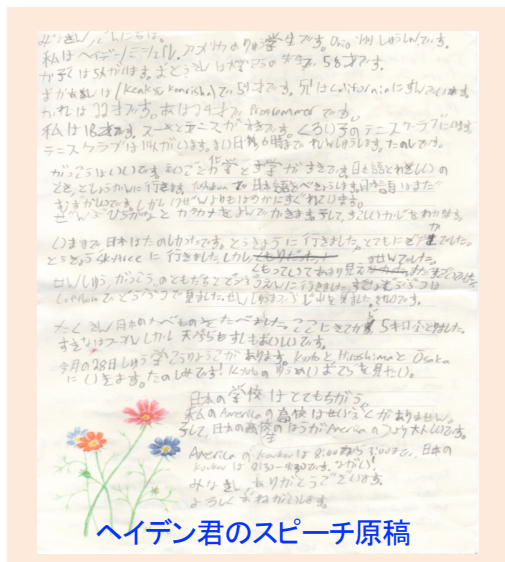


結婚祝い

永山三芳君、植竹一裕君、檜山達郎君、
(戸野俊介君、鳥居輝一君)



国際ロータリー第2550地区 2022~23年度交換留学生 ヘイデン・ロバート・ミツェル君



本日のお客様

出席報告 黒澤洋一委員長 (出席規定の免除会員数8名)

例会日	会員数	出席数	欠席数	出席率	MU 数	修正出席率
本日 11月9日	35(8)	28(5)	7(3)	87.5%	—	—
前回 10月26日	35(8)	29(5)	6(3)	90.6%	2	96.9%

欠席の場合は前日 9 時 30 分までに次のいずれかにご連絡を。電話 62-0128、FAX62-1076 (以上石山桂子)
 メール aavn2bz9k@sound.ocn.ne.jp



本日はお客様に第2550地区財団委員長の森本敬三様と交換留学生のHyden Robert Michel君を迎えての例会です。お二人ともようこそ黒磯クラブの例会にお越しくださいました。歓迎いたします。森本様には後ほど卓話をお願いしております。よろしくお願ひいたします。

ついこの間まで農地が水稻で爽やかな緑色していましたが、11月に入り田んぼも稲刈りが終わりとなり農地の様子も大きく様変わりをしたように思います。季節の移り変わりの早さに驚いております。私の仕事もやっと繁忙期を過ぎ日常の生活に戻りつつあります。今日11月9日は、その語呂合わせから119番の日となっている事はご存知でしょうか？この日から1週間が「秋の全国火災予防運動期間」となっています。火災予防といえば「火の用心」という言葉が浮かんでくると思います。拍子木を打ちながら「火の用心！マッチ1本火事のもと！」というフレーズが頭をよぎります。

では火の用心という言葉はいつ頃から使われていたのかと言いますとおそらく戦国時代頃と考えられます。

徳川家康の三河時代に活躍した奉行がいます。高力清長・本田作左衛門・天野康景の3人です。「仏高力、鬼作左、どっちつかずの天野康景」です。その本田作左衛門が長篠の戦いの陣中から妻に、「一筆啓上、火の用心、お仙泣かすな、馬肥やせ」という手紙の記録が残っております。「火事にならないように十分用心して、お仙という一人息子の面倒をちゃんとみて、武士にとって戦場で命を預ける馬の世話をお願いします。」そんな感じの意味です。当時の家屋は木造建築で、現代の防火技術はありません。火の用心は大変重要な事だったことでしょうか。鬼作左の渾名から頑固で厳しい性格に思われますが、この様な手紙を出すという事は心根の優しい人物だったのでしょう。

因みにこの一筆啓上から始まるこの手紙は、

現存する史料の中では日本で一番短い手紙として有名になっています。

またこの日は明治政府が太陽暦に暦を変更の詔を布告した日で、旧暦の明治5年12月3日を明治6年1月1日にする事が決まった日になります。この暦の変更は、表向きには欧米の列強諸国に併せることが理由になっていますが、公務員は既に月給制となっている上に旧暦では閏月が入ると年13ヶ月の給料を支給する事になります。そこで、明治5年12月3日から30日は実質的に存在しない日となる事から、当時の公務員は本来受け取れる12月分の給料を受け取ることが出来なかったそうです。政府にとっては新暦の12ヶ月の方が都合良かった事も理由になるかもしれません。ひとつの出来事には本音と建前が見え隠れしています。

11月9日は歴史的な出来事が多く重なっています。国内で有名などころでは、「大政奉還」です。徳川慶喜が明治天皇に政権返上の旨を奏上した日でもあります。

当時の時代背景は1853年にペリーが来航して翌年に日本が開国を余儀なく強いられ、列強諸国の影響が日に日に高まり、幕府の力の衰えが見え始めた時代です。このままでは国の存亡の危機と考える薩摩・長州・土佐などの外様大名の力が大きくなって倒幕の気運が高まった時代です。しかし、その倒幕派にも意見の対立がありました。

それは、薩摩・長州・一部の朝廷内部には武力による倒幕を推進する派閥と、諸外国に対して国をひとつにまとめて当たる事を目標に武力行使をしない方向で幕府に政権委譲を目指す土佐を中心にしたグループのふたつに分かれておりました。

武力倒幕派の思いは、幕府自体が政権を手放さない事を想定して武力行使の準備を推し進めていたのです。しかしその中で徳川慶喜は欧米の列強諸国に対抗するためには国内での衝突を止めて、一致団結して列強諸国に対抗する事の重要性を考え、大政奉還という道に進みました。薩摩と長州の倒幕を頓挫させることに成功したのです。その後武断派は宮内省クーデターを企て「王政復古の大号令」を宣言し、徳川慶喜を新しい政府から排除する事に成功したのです。最終的には戊辰戦争を以て武力決着となりました。

徳川慶喜の大政奉還をして国内で一致団結して海外列強諸国に対抗する案は水泡に記す事となりました。これは表の話で、裏で慶喜の考えは、おそらく鎌倉時代以降長い間政権運営に携わっていない朝廷に政権を維持する事は不可能と考え、大政奉還をしても徳川家に頼ってくることを想定していたようです。ひとつの事柄で違う角度から検証しますと色々な事象を見る事が出来ます。ここにも本音と建前が見えてきます。

最後の大きな出来事は1989年ベルリンの町を東西に分断していた壁の崩壊です。これは東ドイツの報道官の勘違いから始まったそうです。今では「歴史上最も素晴らしい勘違い」と称されています。彼は記者会見で「すべての東ドイツ国民に東ドイツからの出国を認める」と発言し時期を問われた時に「ただちに」と発言しました。実際に東ドイツ政府は旅行の自由化はベルリンの壁からの出国を除いた決議であった上に、その目的は一部の抗議活動を行う不満分子の追放だったのです。この大きな勘違いをきっかけに社会主義国家にも自由化の波が押し寄せペレストロイカの波が大きくなりました。翌年に東西ドイツが再統一され現在に至ります。

表の部分では、東ドイツをはじめとする東欧社会主義国家の崩壊、ドイツ国民のドイツ統一の願いなどが挙げられますが、別の角度で見ると、ドイツ統一する事でヨーロッパ連合(EC)からEU連合へ変遷し貨幣の統一(ユーロ)、国内のパスポート廃止、東欧諸国のEU加盟拡大など現在のEU連合の発展に大きな舵を取るきっかけとなりました。この事は表・裏の話ではありませんが、一つの出来事が様々なところに影響している事に間違いはありません。

前回の挨拶で一つの出来事を違う角度で描かれている本を読む話をしましたが、実際にどんな事でも様々な角度から検証することの大切さを改めて考えさせられました。

<第7回理事役員会議事録>

- ① 12月のプログラムについて
*12月3回例会 承認。
クリスマス会事業計画書別紙
- ② 12月10日地区大会、会長幹事会懇親会登録料1名15,000円支出承認の件。
*植竹会長1名出席・登録料15,000 承認。
- ③ 12月11日地区大会、バス利用費等70,000円支出承認の件。
*バス利用経費等予算(案)70,000円 承認。
- ④ 理事役員指名委員会、選出の理事役員承認の件
*理事役員指名委員会より提出の予定者12名を 承認。
12月7日の年次総会で審議予定。
- ⑤ クラブ慶弔規定見直しをクラブ定款細則検討委員会へ付託する件。
*クラブ慶弔規定見直し、及び追加項目、検討をクラブ定款細則検討委員会へ付託する。
- ⑥ 小西久美子ガバナー補佐の夫、小西孝夫様葬儀・香典の件
*生花と香典10,000円 承認。
- ⑦ その他(11月16日例会クラブ協議会内容)
*会長よりクラブ運営に時代の変化を取り入れる提案発表。



委員会報告 稲垣政一副会長



○ 広報委員会 高木慶一委員長



幹事報告 大島三千三幹事



1. 地区ゴルフ大会(12月9日)の参加申込みを明日までお願いいたします。
2. 12月11日(日)地区大会参加の案内配布。
3. 小西久美子ガバナー補佐の夫、小西孝夫様ご葬儀11月10日午後6時から通夜式、11日11時半から告別式、ともにセレモニーホール「あぶらや」です。
4. 本日、例会終了後第7回理事役員会を開催いたします。
5. 那須塩原市より表彰状と記念品を頂きました。

今年度もデジタルフォトコンテストを開催いたしますので奮ってご参加ください。募集要項は以下のとおりです。

第22回(植竹年度)デジタルフォトコンテスト
作品募集

令和4年11月1日
広報委員会
委員長 高木慶一

黒磯ロータリークラブ恒例のデジタルフォトコンテストも植竹年度で第22回目を迎えることになりました。今年度のテーマは「感動・感激の写真」です。国体、催し物、行事、祭り、祭事、神事などご自分が感動した写真。春夏秋冬の季節の感動の写真(季節が分ればどのような写真でも良いです)会員の皆様が今までに撮影された写真の中からご自慢の作品を会員ご夫婦おひとり3点(計6点)まで、下記要領にて応募くださいますようお願いいたします。

記

1. 応募方法
応募作品はEメールに添付し送信してください。
メールアドレスは step2001@galaxy.ocn.ne.jp (高木広報委員長)になります。
※応募作品は、作品名と撮影場所をお知らせください。
2. 応募受付期間
○令和4年11月9日(水)～令和4年12月7日(水)まで
3. 投票受付期間
○令和4年12月14日(水)～令和4年12月21日(水)の一週間
会員皆様に投票して頂くため応募作品は黒磯ホームページに掲載します。尚、投票は会員お一人3点までとし、自作品への投票は無効と致します。
4. 表彰
○最優秀賞1作品、準優秀賞1作品、優秀賞1作品、佳作4作品
入賞者の発表は、令和4年1月4日(水)の新年会席上にて行います。以上



本日の卓話

ロータリー財団委員会 村山茂委員長



本年度の当委員会は、藤崎善隆副委員長、井出法委員と私の3名で担当いたしました。本年度の計画は、

- ① 財団特別寄付 \$ 150+ポリオプラス \$ 30合計 \$ 180/人
- ② ベネファクター (恒久基金) \$ 1,000 以上：1名
- ③ 地区補助事業の活用

この活用による寄付活動は、那須塩原市のみで行っていましたが、クラブ活動範囲拡大を勘案し、那須町もその対象として2023-24年度地区補助金の申請を行う。

以上が本年度の主な活動計画でございます。皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

さて、本日は先ほどのご紹介の通り、国際ロータリー第2550地区パストガバナーであり地区ロータリー財団委員長の森本敬三様に本日の卓話をお願いいたしました。森本様には公私ともご多用のところ、黒磯クラブの例会にご出席そして卓話を頂きますことに対し、改めてお礼申し上げます。

本来ですと森本様のプロフィールをご紹介すべきところですが、皆様には既にご承知のことと存じますので、お時間も限られておりますので割愛させていただき、会報への掲載のみとさせていただくことをお許し願います。それでは森本様、卓話をお願いいたします。

○ 卓話 「ロータリー財団について」

国際ロータリー第2550地区

ロータリー財団委員長

森本敬三様(パストガバナー、大田原中央ロータリークラブ)

<講師略歴>

1990年-1991年 大田原中央ロータリークラブ
入会 クラブ幹事
1999年-2000年 クラブ会長



ニコニコボックス 檜山達郎委員



- 森本敬三君 お世話になります。
- 植竹一裕君 森本地区財団委員長、ようこそ黒磯クラブへ。
- 村山 茂君 森本敬三パストガバナーようこそ黒磯クラブへ。
- 黒沢洋一君 誕生日ありがとうございます。
- 荒牧明二君 誕生日ありがとうございます。70才になりました。
- 秋間 忍君 例会が無いと会報も解放されます。
- 澤田吉夫君 昨夜のお月さま、きれいでした。
- 永山三芳君 結婚祝ありがとうございます。
- 檜山達郎君 結婚祝ありがとうございます。

2003年-2004年	クラブ幹事
2006年-2007年	クラブ会長
2012年-2013年	クラブ幹事
2014年-2015年	第一グループ ガバナー補佐
2016年-2017年	クラブ会長
2017年-2018年	地区ロータリー財団委員長
2018年-2019年	地区ロータリー財団委員長
2020年-2021年	地区ガバナー
2021年-2022年	地区ロータリー財団委員長
2022年-2023年	地区ロータリー財団委員長

ロータリー財団の使命

ロータリー財団の使命は、ロータリー会員が、人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保全に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界理解、親善、平和を構築できるよう支援することです。

「世界でよいこと」をしてきた105年

1917年、当時の会長アーチ・クランプが「世界でよいことをする」ための基金をつくるというビジョンをアトランタ大会で発表しました。この発表を受けカンザスシティーロータリークラブから26ドル50セントの寄付を受けスタートしました。その11年後の1928年に財務省からの承認を受け名称をロータリー財団と称する事になりました。ロータリー財団は、慈善活動を目的とする公共慈善団体であり、管理委員会によって管理されています（会員制組織である国際ロータリーは、理事会によって管理されています）。

ポリオ根絶運動

☆1985年、国連40周年に合わせてポリオ・プラスプログラムを開始、当初プラスとは、はしか、ジフテリア、百日咳、結核、破傷風でした。現在では、ワクチン投与のインフラ、並びにサーベイランス、ファンドライジング等を指しています。

☆1988年、国際ロータリー、WHO、ユニセフ、CDC(米国疾病センター)により、GPEI(ポリオ撲滅推進計画)を設立。現在ではコアパートナーとして、ビル・アンド・メリンダ・ゲーツ財団、GAVI(グローバルワクチンアライアンス)が加わって6つになります。

☆2007年の規定審議会でポリオ撲滅を国際ロータリーの最優先の目標にすることが承認され、野生株ポリオウイルスの撲滅の証明がされるまで、国際ロータリーは他のプロジェクトを採択しないと決めています。

☆目標2026年終息宣言

11月にアフガニスタン全土でポリオワクチン接種が再開される。カブール/アンマン/カトマンズ、2021年10月18日WHOとユニセフは、アフガニスタン全土での家から家へのポリオワクチン接種の再開を支持するタリバン指導部による決定を歓迎します。と発表また、タリバンの指導部は、女性の最前

線の労働者を含めること、およびポリオワクチン接種キャンペーンの実施に不可欠な前提条件である全国のすべての医療従事者の安全を確保することへのコミットメントを表明しました。さらに、11月8日に始まる予防接種キャンペーンは、アフガニスタンのすべての子供達に3年ぶりに届けられます。これには、以前は予防接種キャンペーンにアクセスできなかった330万人以上の子供たちが含まれます。2回目の全国的なポリオワクチン接種キャンペーンも合意されており、12月に計画されているパキスタン自身のポリオキャンペーンと同期する予定です。2021年にこれまでに報告された野生ポリオウイルスの症例は1つだけであり、アフガニスタンはポリオを根絶するため今がとて大切な時期なのです。

重点分野が「6つから7つ」へ

国際ロータリーでは、従来6つの重点分野への取組みを推進してまいりましたが、2021年7月から1つ「環境保全」が加わり7つの重点分野となりました。これに伴いロータリー財団のグローバル補助金の対象も従来の6つの重点分野から7つになります。6月号「ロータリーの友」に詳しく掲載されていますので、ご一読された方もいるかと存じますが、復習の意味も込めて取り上げてみました。

環境保全と言っても範囲は広く、例えば従来の6つの重点分野「水と衛生」や「地域社会の経済発展」、「基本的教育と識字率向上」「母子の健康」「疾病予防と治療」等にも関係するものもあつたりするのかもしれないと思ったりします。例えば

☆生息地の回復、原生植物の植え付け、外来種の駆除

☆絶滅危惧種の保護と野生生物の違法取引の防止

☆乱獲、汚染、海岸浸食への取組み

☆環境保全と資源管理に関する地域社会の啓発

☆環境にやさしい農業と持続可能な漁業の支援

☆資源管理における伝統的知識・先住民族の知識の利用促進

☆エネルギー効率の高い輸送手段への移行支援

☆環境有害物質への暴露の排除

☆食品廃棄物の削減等

従来同様、地域社会の評価を受け持続可能でなければなりません。ここで注意しなければならないのは、例えば「地域社会の美化プロジェクト」や「単発の清掃活動」「広範な戦略の一環ではない植樹」「屋外レクリエーション」は対象にならないという事です。グローバル補助金は実施国・支援国と国をまたいでの支援活動であり、従来では主に発展途上国を実施国とする例が多くありました。

是非、地域調査をしていただき、持続可能なプロジェクトが実施国として可能かどうか研究していただきたいと思ひます。

例えば、ローターアクトクラブやインターアクトクラブを交え調査研究し、地域自治体やNPO等と連携して温暖化対策をめざすプロジェクトを実施してみる。は如何でしょうか。また、高齢化に伴う耕作放棄農地の利活用等、地域社会との関わりを通して海外の姉妹クラブや友好クラブと共同でクラブがどこまで参画出来るのか？大変楽しみな分野が一つ加わったのではないかと思ひます。

〔当地区最近の現況〕

お陰様で「世界でよいことをする」ため皆様から寄せられた21-22年度のご寄付は年次基金281,864ドル(1,665人/169ドル)となり、3年後にシェアシステムにより半分が地区に戻ってまいります。ポリオへの寄付は39,673ドル(1,665人/23ドル)でした。その他に恒久基金の運用益22,719ドルがあります。余りは次年度に繰り越されます(但し、5年間で使い切ります)。

一方、支出では地区補助金に72,963ドル(35件)、地区活動資金(DDF)よりグローバル補助金に41,200ドル(3件)、ウクライナ人道支援に20,000ドル、ポリオ根絶に14,000ドル支出致しました。

今年度は上期後半ではありますが、地区補助金では2件の奨学金を入れて49,026ドル(22件)。地区活動資金(DDF)よりグローバル補助金奨学金2件を入れて48,630ドル(3件)、ウクライナ、ムシユン村(300プロジェクト)へのモジュラーハウス寄贈の為の災害救援補助金(25,000ドル)です。

今年度の地区目標は年次基金にお1人150ドル、ポリオ根絶にお1人30ドルの寄付をお願いしています。

一方、ロータリー財団では、寄付をしていただいた方への感謝の証として認証制度があります。1957年ポール・ハリスを顕彰するために、1回1,000ドルのポール・ハリス・フェローの認証プログラムが創設されました。また、2013年には毎年1,000ドルを誓約されますとポール・ハリス・ソサエティーの認証があります(1665名/23名)。

大口寄付10,000ドル以上のメジャードナーや25万ドル以上寄付された方にアーチ・クラフを顕彰したアーチ・クラフ・ソサエティー(当地区では2名)等があります。財団がこれからも「世界でよいことをしよう」を推し進めていくためにも皆様のご理解とご支援が必要です。

ロータリー財団

2022-23年度 目標と計画

一昨年の8月、WHOより嬉しいニュースが飛び込んでまいりました。国際ロータリーが1985年以来、取組んでまいりました野生株に

よるポリオ根絶の成果がナイジェリアで達成されました。これで、アフリカ大陸はポリオフリーとなりました。

37年余の長い道のりを地道に取り組んできたロータリアンの支援の賜物と思ひます。残すは、あと2か国(アフガニスタン、パキスタン)です。

ポリオ根絶にお1人30ドルの支援のお願いです。

例えば、100ドルをポリオに寄付しますと、50ドルがWFから上乗せされ、150ドルになります。この150ドルの2倍(300ドル)がゲイツ財団より上乗せされ450ドルになります。国際ロータリーは2022-23年度5,000万ドルを目標にしています。この金額にビルアンドメリンダ・ゲイツ財団より2倍の上乗せがあります。

年次基金にお1人150ドルのご支援をお願い致します。

この基金は、3年間運用され3年後に元本がシェアシステムにより地区活動資金(DDF)とWFに戻されます。この戻された地区資金の1/2が地区補助金となります。昨年度(2021-22)当地区での年次基金への寄付額は、お1人当たり平均169.29ドルでした。ありがとうございました。3年後が楽しみです。

ロータリーカードの普及促進

既に多くの会員の皆様はカードをお持ちの事と思ひますが、地区内ロータリアン1,705名の内、ロータリーカードをお持ちの方は僅か2.2%(2021年5月現在)しかいません。是非ロータリーカードをお持ちください。この個人カードで使用した金額の0.3%がカード会社の負担でポリオ根絶に寄付されます。

ポール・ハリス・ソサエティー会員の加入促進

毎年1,000ドルを年次基金や7つの重点分野に寄付していただける会員です。例えば、ロータリーカードから毎月15,000円を寄付していただけますと為替状況によりませんが年間18万円になりポール・ハリス・ソサエティー会員となります。(2021-22年度の地区内ポール・ハリス・ソサエティー会員は1,665名中23名でした)





出席報告 浜木大治委員

11月9日欠席者（敬称略）
荒井昌一 泉道夫 鈴木久雄 藤崎善隆
渡辺裕雄 瀬尾紀夫 戸野俊介

前回10月26日分メイクアップ（敬称略）
鳥居輝一 秋間忍

次回例会 令和4年11月16日 クラブ協議会 担当 植竹一裕会長

近隣クラブ例会日

○火曜日 西那須野/いとう屋 0287-36-0028
○木曜日 大田原中央/勝田屋記念会館 0287-23-4165

近隣クラブ例会日

○木曜日 大田原/ホテル花月 0287-54-1105
○金曜日 黒羽/ホテル花月 0287-54-1105

会報委員会：秋間忍・村山茂・和氣勝利・瀧田雅仁